2012年トップ人事を占う

パナソニック、3氏競う

電機

山田氏

宮田氏

津賀氏

オムロンは1月17日に社長交代を発表。山田義仁執行役員常務（中央）が6月に社長に就任した

エレクトロニクス業界で最も注目されるのが、パナソニックの大坪文雄社長（66）の去就だ。06年に就任した大坪社長は、パナソニックへの社名変更や三洋電機のグループ会社化を実行し、12年1月にパナソニック電工を吸収合併する。12年3月期は薄型テレビ事業の構造改革を断行し、巨額の当期純損失を計上する見通しだが、膿を出し切り新組織の方向性を明確にした。中村邦夫会長の社長在任期間が6年だっただけに、社長交代の公算は大きい。

次期トップは18年の創業100周年に向け、海外事業の強化などを柱とする成長戦略を主導することになる。候補はAVCネットワーク社社長の津賀一宏専務取締役（55）、海外を担当する宮田賀生専務取締役（58）、インダストリー営業担当の山田喜彦専務取締役（60）らが有力視されている。

一方、既定路線と見られていたソニーの社長交代は、13年以降に持ち越しになる可能性が出てきた。ソニーはハワード・ストリンガー会長（69）が社長を兼務する異例の経営体制が2年半以上続いている。ゲーム事業出身の平井一夫氏（51）が今年4月にテレビなど主力部門を統括する副社長に昇格し、後継候補の筆頭に躍り出た。早ければ12年にも新社長誕生が予想されていた。

ただ4月以降、大規模な個人情報流出やテレビ事業のリストラなど平井氏の担当部門で逆風が相次いだ。近年のソニーは、大本命が社長の座を逃す〝どんでん返し〟が続いていることもあり、好調な半導体や放送機材部門を統括する吉岡浩副社長（59）の芽も出てきた。住友電気工業は会長ポストが3年前から空席。今年から関西財界の要職を兼務し、次期トップ待望論も多い松本正義社長（67）は就任8年目。圧倒的な存在感と強力なリーダーシップで社を率いてきたが、後進に道を譲る時期に差し掛かった。

自動車事業の西田光男専務（63）や情報通信事業の田中茂専務（60）が後継候補か。しかし松本社長はかねて後継条件に海外経験を挙げており、自動車事業出身で海外法人の社長をしている井上治取締役（59）の抜てきも十分にあり得る。

NTTグループ一新も

通信

山田氏

鵜浦氏

江部氏

11年は通信会社の社長交代はなかった。NTTグループは3月の東日本大震災の対応を優先するため、グループ主要各社の社長交代を控えた。KDDIとイー・アクセスは10年に社長が代わって、新体制がスタートした年となった。11年の社長人事は全く無風だった。

逆に12年は震災の影響で社長人事を控えたNTTをはじめ主要各社が一斉に交代するという観測が高まっている。NTTの三浦惺社長（67）は来春で在任5年となり、交代する可能性が高い。後任候補には稼ぎ頭のNTTドコモの山田隆持社長（63）、ディメンションデータ買収の立役者で海外事業を推進するNTTの鵜浦博夫副社長（62）の名前が挙がる。主要各社の社長の中でも年次の高いNTT東日本の江部努社長（64）も有力候補の一人だ。

NTTは現在、モバイル、クラウド、グローバルを軸にした事業戦略を重視。変化の速い通信業界で三つの事業を引っ張るリーダーシップが次期社長に求められている。3氏とも十分な実績を兼ね備えており、NTTの未来を誰が背負うのか注目される。

鹿島、任期途中で交代も

ゼネコン

田代氏

渥美氏

ゼネコン大手では大成建設の山内隆司社長（65）、清水建設の宮本洋一社長（64）、大林組の白石達社長（64）はいずれも07年就任。これから6年目に差し掛かる段階で、年齢的に見ても続投の可能性が強い。

鹿島の中村満義社長（68）は05年就任。4期目で13年5月末まで任期があるが、同社ではこれまで途中交代も珍しくない。創業家の渥美直紀副社長(62)と、田代民治副社長(63)が後任候補として取り沙汰される。ただ、建設業界の経営環境は厳しく、営業畑の中村氏が引き続き経営基盤固めに取り組む線も濃厚だ。前任の梅田貞夫会長（77）は9年間社長を務めた。

また、非上場の竹中工務店の竹中統一社長（69）は80年から在任。同社の求心力として交代はないだろう。

NTTデータ、内部昇格か

情報・コンピューター

岩本氏

榎本氏

IT・情報サービス業界は富士通とNECが10年にトップ交代してから2年目であり、外資系も日本IBMをはじめ大手が一巡しているため大きな動きはなさそうだ。

その中で注目がNTTデータ。山下徹社長（64）が在任5年目で交代が濃厚だ。内部昇格が有力で、次期社長として名前が挙がるのが岩本敏男（58）、榎本隆（58）の両副社長。岩本副社長はこれまでの公共・金融分野の事業部門に加え、11年度から法人分野も統括する。一方、榎本副社長は海外事業を統括し、同業企業のM&A（合併・買収）戦略を通じてグローバル化を推進してきた。

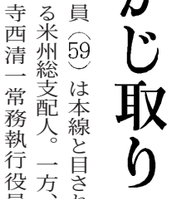
ITホールディングス（HD）は岡本晋社長（68）が08年から初代社長を務め、同HD傘下のTISの社長時代を含めるとトップの座は8年目。同HDは12年度から15年度までの新中期経営計画を策定中で、計画の公表を花道に勇退する可能性がある。

後任には藤宮宏章取締役兼TIS会長（64）や金岡克己取締役兼インテック社長（55）らが候補に挙がる。

双日、かじ取り一区切り

商社

寺西氏


込山氏

去就が注目されるのは双日の加瀬豊社長（64）。12年4月で就任6年目に突入する。現在の中期経営計画の最終年度が11年度であり、かじ取りに一つの区切りがつくことから交代の可能性がある。2人の常務執行役員が有力視されている。込山雅弘常務執行役員（59）は本線と目される米州総支配人。一方、寺西清一常務執行役員（56）は加瀬社長も経験した生活産業部門の部門長を務める。ただ、商社では社長交代の周期は在任6年が通例。続投も十分あり得る。

住友商事の加藤進社長（64）も12年6月で6年目に入るが、こちらは11年4月からスタートした中期経営計画の期中にある。さらに、同社では在任6年で交代した事例が過去に多くあり、交代の線は薄いと見られる。

三越伊勢丹、大西氏が有力

食品・流通

大西氏

小売業界では三越伊勢丹ホールディングス（HD）の石塚邦雄社長（62）の去就が注目されている。石塚社長は三越銀座店の増床、大阪市のJR大阪三越伊勢丹の開業と二つの大型案件をこなしており、これを花道にHD会長になる可能性がある。石塚氏の後任としてはHD取締役で事業会社、三越伊勢丹社長の大西洋氏(56)が最有力。

一方、食品業界ではキッコーマンの茂木友三郎名誉会長（70）の交代が観測されている。茂木氏は2人目の創業家以外からの社長で海外事業拡大など実績を上げた。後任には創業家の一角である堀切家の堀切功章専務（60）が有力だ。ビール大手はキリンホールディングスの三宅占二社長（63）、アサヒグループホールディングスの泉谷直木社長（63）がともに10年の就任で交代の可能性は低いだろう。

三菱UFJ信託銀に注目

銀行

信託銀行の岡内欣也社長（60）が在任4年目を迎え、去就が注目される。後任には和地薫専務（56）の名前が挙がる。りそなホールディングスの細谷英二会長（66）は代表権を返上し、檜垣誠司社長（60）らが集団経営体制で主導する見通し。

メガバンクでは三菱東京UFJ銀行の永易克典頭取（64）が退任し、平野信行副頭取（60）が2012年4月にも頭取に昇格する見通し。また業界では早くも平野氏の後任の頭取候補が取り沙汰されており、総務・企画担当の小山田隆常務（56）の呼び声が高い。

三井住友銀行は4月に国部毅頭取が就任しており、当面は無風。みずほフィナンシャルグループも傘下のシステム障害を受けて経営陣を入れ替え、6月に佐藤康博社長が就任したばかり。

財政基盤強化途上で無風

証券

野村ホールディングス（HD）など証券大手5社では、近々でトップ交代があるとは考えにくい状況だ。欧州の債務問題や低調な米国景気が株式市場を直撃し、その影響などで各社いずれも業績が低迷。そのため、事業再編成や人員削減などに取り組み、財政基盤の強化を懸命に進めている。こうした中でトップが代われば、その進捗にも影響をきたしかねない。

ましてや、大和証券グループ本社の日比野隆司社長(56)、三菱UFJモルガン・スタンレー証券の豊泉俊郎社長(62)、みずほ証券の本山博史社長(57)はいずれも今年社長に就任し、各社の収支改善を託された側面もある。ただSMBC日興証券、三菱UFJモルガン・スタンレー証券、みずほ証券の銀行系証券はそれぞれグループ人事の影響を受ける可能性も。

明治安田、交代の可能性

保険

生命保険で在任が長いのは明治安田生命の松尾憲治社長(62)で丸6年。後任候補は殿岡裕章専務執行役（58）が有力と見られている。中期計画の策定・スタートや、不払い問題による業務改善命令の解除を機に交代する可能性がある。ただ、生保は6－8年程度の在任期間を務めるケースも多い。交代するのは中計の戦略事業に掲げる、介護事業や海外事業の拡大に一定の道筋をつけてからとの見方もある。

損害保険では07年就任の東京海上日動火災保険の隅修三社長(64)。持ち株会社の東京海上ホールディングスの社長を兼務し、いずれも12年6月で丸5年となる。ただ、同社の任期は2期6年が通例。交代の可能性は低く、来年も海外展開の拡大や損害率改善、コスト構造改革など総仕上げに取り組む年となりそうだ。

大型交代相次ぎ 動きなし

不動産・住宅

不動産、住宅業界は11年に大型の社長交代が相次いだため、12年に目立った動きは少なそうだ。不動産業界では11年に三井不動産、三菱地所、森ビル、野村不動産HDで社長が交代。12年2月に東京建物の社長交代も控えている。不動産業界は11年に社長在任期間が比較的長く、07年就任の住友不動産の小野寺研一社長(64)や、08年の東急不動産の金指潔社長（66）はまだまだ若手と言えそう。唯一在任が長いのは森トラストの森章社長(75)。兄で森ビルの森稔氏（77）が11年に社長を退いたことで、去就に注目が集まる。

住宅業界は10－11年に4社が交代。積水ハウスの阿部俊則社長(60)とミサワホームの竹中宣雄社長(63)は12年で就任丸4年を迎えるが、それぞれ中期経営計画の途上で交代の可能性は低そうだ。

武田薬、大川取締役も

製薬

大川氏

製薬業界は、最大手の武田薬品工業の長谷川閑史社長（65）の去就が注目される。11年4月から経済同友会代表幹事に就任。10月には政策決定の司令塔といえる「国家戦略会議」の民間メンバー6人に選出され、激務に拍車がかかる。さらに、本業では新興国や欧州に販路を持つスイスの製薬企業ナイコメッドの完全子会社化を完了。1兆1200億円の大型買収をまとめ上げグローバル化を推進にめどをつけた。

関係者によるとナイコメッドの買収案件が最近の最大の懸案事項だった。長谷川社長自身は12年度中計期間中の続投を明言しているが、成長軌道に乗った時点での交代もあり得る。後任は海外経験があり新薬に精通する大川滋紀取締役（56）が有力か。

ネプコン ジャパン2012 内
半導体、LED、パワーデバイス、MEMSに必要なパッケージング技術が一堂に集まる専門展
第13回 半導体パッケージング技術展
ICP
特別企画 ネプコン ジャパン2012 内
第2回 パワーエレクトロニクス技術ゾーン
パワーエレクトロニクス技術に特化した専門ゾーン
最先端技術 多数!!
製品導入、比較検討のためにぜひご来場ください!
展示会招待券(無料)申込受付中!
会　期: 2012年1月18日[水]～20日[金]
10:00～18:00(20日[金]のみ17:00終了)
会　場: 東京ビッグサイト 西展示棟
主　催: リード エグジビション ジャパン株式会社
併　催: 第41回 インターネプコン ジャパン
第29回 エレクトロテスト ジャパン
第13回 国際 電子部品 商談展
第13回 プリント配線板 EXPO
第3回 先端 電子材料 EXPO
第2回 精密 微細 加工技術 EXPO
同時開催: オートモーティブ ワールド 2012
ライティング ジャパン 2012 ～第4回 次世代照明 技術展～
展示会招待券(無料)のお申込み・最新情報はこちら　ICP EXPO　検索
半導体パッケージング技術展 事務局　リード エグジビション ジャパン株式会社
〒163-0570 東京都新宿区西新宿1-26-2 新宿野村ビル18階　TEL: 03-3349-8502　FAX: 03-3349-4900　E-mail: icp@reedexpo.co.jp　公式HP: www.icp-expo.jp